プラスワン・シリーズ

# 基礎 現代文問題集

三省堂編修所 編

PLUS ONE

三省堂

PLUS ONE

プラスワン・シリーズ

# 基礎現代文問題集

三省堂編修所 編

プラスワン・シリーズ
基礎現代文問題集

定価 350 円

1979 年 12 月 10 日 第 1 刷発行
1983 年 2 月 10 日 第 5 刷発行

©
編 者 三省堂編修所

発行者 株式会社 三省堂 代表者 上野久徳

発行所 株式会社 三省堂

〒101 東京都千代田区三崎町二丁目 22 番 14 号
電話 編集 (03) 230-9411
販売 (03) 230-9412
総務 (03) 230-9511

振替口座 東京 6-54300

〈プラスワン基礎現代文・120p.p.〉 N.D.C.番号910

落丁本・乱丁本はお取替えいたします Printed in Japan

# まえがき

いろいろな影響からであろうが、最近の高校生の国語力は特に低いように思われる。なんとか国語に親しみながら力をつける方法はなかろうか？　日ごろの経験からいくと、読書の好きな人は自然に力がつくようである。しかし、たくさんの教科の学習に追われている諸君に、それを求めることは酷のようである。そこで最小の努力で最大の効果があがるようにこの本を編集した。

国語のすべてを網羅したような参考書でも、浅くては役に立たないし、詳細なものでは消化しきれない。またあまりに難しいものでは、本棚の飾りになってしまうであろう。本書は適当な量と、適度な難しさで、国語のエキスを勉強してもらうことにした。

①本書は、高校の入試問題、高校の教科書、大学の入試問題などから幅広く資料を集め、なるべく形の違った問題をそろえた。

②基本事項をおき、次に練習問題があり、応用問題に続く。易しいところから、一歩一歩難しい方へ進むように配慮した。いろいろと資料を調べて行くと、高校入試と大学入試の問題が、出題の内容が違っていても、同じ題材であることがある。決して易しいと軽んじてはいけない。できたという喜びを味わいながら、できるという自信をつけていってほしい。

③脚注に語句の説明をしておいたので、活用されたい。言葉を覚え、慣れ、使用できるようになることが国語の基本であるから、これからもおっくうがらずに辞書をひく習慣をつけてほしい。

④問題の解き方のヒントを、脚注にできるだけつけておいたので参考にされたい。

どの教科にせよ基本が大事であるから、じっくりと実力を身につけてほしい。本書によって実力がつき、国語が好

きな教科の一つだといえるようになったら、編集した者としてたいへんうれしく思う。

本書の編修にあたっては、坂井昭七先生に全面的にご協力をいただいた。ここに深く感謝の意を表する次第である。

一九七九年十一月一日

三省堂編修所

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

# 目　次

まえがき……(1)
**基本問題編**……1
一　構成と大意に関する問題……1
〔練習問題〕〈新聞社説〉……4
二　指示語に関する問題……7
〔練習問題〕串田孫一「表現の悦び」……8
三　空所充塡・選択肢の問題……10
〔練習問題一〕高階秀爾「芸術・狂気・人間」……10
〔練習問題二〕ジョルジュ・ルグロ「ファーブル伝」……12
〔練習問題三〕岩崎武雄「正しく考えるために」……13
〔練習問題四〕沢潟久敬「読書について」……17
**応用問題編**……21
〈随想〉……21
1 遠藤周作「聖書のなかの女性たち」……21
2 斎藤隆介「職人衆昔ばなし」……22
3 井上靖「孤猿」……24
4 本多勝一「極限の民族」……27
5 幸田文「濡れた男」……29
6 幸田文の文章……31
7 谷崎潤一郎「陰翳礼讃」……35
〈評論〉
1 小泉信三「読書論」……38
2 生島遼一「学生への手紙」……39
3 小林秀雄「私の人生観」……41
4 渡辺正雄「日本人と近代科学」……47
5 井上晴丸「現代学問のすすめ」……49
6 山崎正和「このアメリカ」……51
7 河盛好蔵「人とつき合う法」……53
8 高橋和巳「隔絶の時代」(一)……55
9 高橋和巳「隔絶の時代」(二)……57
10 今西錦司「進化とはなにか」……59
11 新聞社説(一)……64

12 新聞社説(一)……67

〈小説〉

1 安部公房「砂の女」……70
2 阿川弘之「すずきとおこぜ」……72
3 井上靖「あすなろ物語」……76
4 田宮虎彦「足摺岬」……79
5 林芙美子「泣虫小僧」……81
6 林芙美子「風琴と魚の町」……85
7 志賀直哉「暗夜行路」……87
8 芥川龍之介「舞踏会」……90
9 有島武郎「生れ出づる悩み」……92
10 芥川龍之介「ある日の大石内蔵助」……96
11 オー・ヘンリー「最後の一葉」……99

〈詩〉

1 釈迢空「古代感愛集」……101
2 井伏鱒二「厄除け詩集」……102
3 千家元麿「自分は見た」……105

解答編（別冊）

# 基本問題編

## 一　構成と大意に関する問題

**基本事項**

自分の考えを正しく相手に伝えるために、人は話の進め方を工夫する。これを論説文といい、話を組み立てるようにして結論を出す。小説は、風景描写をしたり人間観察をしたりして話を進める。論説文にせよ、小説にせよ、話が変わったり情景が変わったりした時、切れ目ができる。ある話のひとまとまりを段落という。

文がいくつか集まって段落となり、段落がいくつか集まって文章となる。作者がその文章で何を言いたいのか、どういうふうに話を進めているのかを調べるとき、段落と構成は密接な関係があることがわかる。大意をまとめるとき、段落の結びつきを考えなければならないし、論の進め方を調べるために段落に区切らなければならない場合もある。

① 論説文には、次のような文章構成がある。

ア　尾括式（序論（前提）→本論（展開）→結論）

イ　頭括式（結論→説明）

ウ　双括式（結論→説明→結論）

② 段落はまず改行部分に目をつけ、次に話の内容が変わっていないかどうかを考える。全く改行のない文章を段落分けさせる問題などは、話の内容が変化したところを見つける。次のような点に着目する。

ア　素材（取り上げられている問題）が変わる。

イ　時間の経過、場面が変わる。

ウ　論者の立場、または情況が変わる。

③ 接続詞をしっかりつかむ。

ア　順接（前の話を受けて新しい話に進む）――だから、したがって、それで

イ　逆接（前の話を否定したり、反対のことをいう）――しかし、だが、けれども

ウ　転換（前の話とは少し違うことをいう）――

さて、次に、では、ところで

エ　補足（前の話の足りない部分を補う）――なぜなら、というのは、また

オ　要約（前の話を言い換えたり、まとめたりする）――つまり、あるいは、例えば

④　段落ごとの内容をまとめ、それをつなげて一つの文章にする。大意はふつう原文の三分の一から四分の一程度につづめる。時には字数制限のある問題もある。

ア　段落の中のキーワード、何べんも出てくる言葉に目をつける。段落の中の大事な文を見つける。段落ごとに箇条書きふうに書く。

イ　作者のいちばん言いたい主要部分はどこか見つける。他の段落とどうつながっているか考える。

ウ　段落ごとにまとめたものをつなげて一つの文章にする。重複したものを削り、不足した部分を補う。筋の通ったものになるように、接続詞には十分注意する。

**[例文]**

今年も八月一日の「水の日」、それにつづいて「水の週間」を迎える。照りつける暑さのなかで、せめて年に一度は、かけがえのない水のありがたさをみんなでかみしめてみたい、という趣旨だ。

民間団体と政府、地方自治体による「水の週間実行委員会」は、期間中いろいろな行事を予定している。渇水のきびしい東京や福岡では、一般市民や小中学生対象の水資源展示会、また河川の恩恵にあずかる十五地区では、社会科担当の先生や母親によるダム・用水施設の視察会が開かれる。ほかに全国中学生の作文コンクールや、主要都市での「水」講演会もある。

この夏は、行楽にあてる時間の一部でもさいて、こうした事業のどれか一つと接点を持ってみたい。みんながそう試みることで、しのび寄る渇水問題への国をあげての手当てが、初めて可能になる。

物の価値は、あり余っているときには分からない。その意味で、今年の夏は水を考える、つまり、水の有限性を再

認識する絶好の機会といえるだろう。

まず、渇水の訪れ方がひんぱんになってきた。東京では、去年八月十五日から五十七日間も給水制限したばかりなのに、今年はもう七月はじめから第一波の渇水に見舞われた。いまのところは小康状態だが、天候次第ではどうなるか分からない。

渇水が全国的現象になってきたことにも注意したい。建設省河川局によると、去年は三十二都府県の三百九十六区市町村で給水制限がおこなわれた。影響をうけたものの数は千八百六十万にのぼる。人口や産業の都市集中、生活様式の変化で全国的に水需給が窮屈になった結果である。

政府の推定では、八〇年の生活用水や工業用水需要量は七五年より六〇％も増えることになる。ダムや河口堰約三百六十を造ってまかなう計算だが、造水と節水の両面で手当てをしないことには、日本の水事情は必ずパンクする。

今年は石油危機で省エネルギーの声が高い。水もまた有限の資源だ、ということを考える他山の石としたい。圧倒的な「火主水従」時代とはいえ、水力発電は電力需要のピーク時を支え、その役割は石油危機のなかで再認識されようとしている。むずかしいえば「水の復権」である。

河川開発の現場で、営々と水をつくる作業を見た先生や母親は、水がもはや天与のものでないことを教室や家庭で子どもたちに伝える。展示会や講演会で、社会生活に果たす水の機能を知った市民や中小学校の生徒たちは、水の大切さと、生きた使い方を教室や家庭の話題にする。

そのような「水の日」「水の週間」にしたい。都市では聞こえない資源開発のツチ音や、上流水源地の人びとが払う犠牲が、国民みんなの実感に訴えるような行事になって欲しい。

**解説**　これはA新聞の社説である。十の小段落から成っている。これを前記の方法に従ってまとめてみよう。

①　八月一日は「水の日」である。つづいて「水の週間」がある。

②「水の週間」にはいろいろな行事が行われる。
③これらの行事の一つに、ぜひ参加してほしい。
④今年の夏は、水の有限性を考える絶好の機会である。
⑤渇水の訪れ方がひんぱんになってきた。
⑥渇水が全国的現象になってきた。
⑦造水・節水などの対策をとらないと、八〇年には危険な状態になる。
⑧水力発電も見直されようとしている。
⑨大人や子どもも、水をつくる苦労や水の機能を知って、水の大切さと使い方を話題にする。
⑩そのような「水の日」「水の週間」にしたい。

このように列挙してみると、この文章は大きくいって三つに分けられることに気づく。①②③と④⑤⑥⑦⑧と⑨⑩である。筆者の言いたいことは①②③と⑨⑩で、二回繰り返されていることになる。まん中に説明がはさまれている。双括式である。

（大意）

『八月一日は「水の日」であり、つづいて「水の週間」があって、いろいろな行事が行われる。その一つには、ぜひ参加してほしいものである。渇水は全国的現象となり、それもひんぱんになってきた。今から造水・節水の対策をとらないと、八〇年には危険な状態になるという予測であるし、水力発電も見直されようとしている。「水の日」「水の週間」をきっかけにして、水をつくる苦労や水の機能を知り、水の大切さと使い方を考えてほしい。』

【練習問題】

A　日本の山をたたえる言葉を聞いた。

【出典】A　新聞社説

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

「町は緑がなく、したがって奥行きもなくて平板だが、すばらしいのは山だ。山があるから、私は日本へ来る」（米国の造園家ドン・カイリー氏）

その日本の山が荒廃している。「欧米の諸国民に比べて、日本人の山を育てる意識や態度には、百年の遅れがある」と、日本のあるアルピニストはいう。ハイキングも含めて、日本の登山人口は年間千数百万人といわれる。それほどにまで親しまれる山が着実に荒廃への道をたどっている。

荒らすのは何か。ゴミである。神戸・六甲山で清掃登山が行われ、三百人が登って、一人十五キロのゴミを集めた。富士や白山の雷鳥はゴミと残飯により絶滅した。

荒らすのはまた、所かまわず踏み歩く人の足である。立山室堂の花畑にあった黒ユリの群落は踏み荒らされて姿を消し、永久によみがえることはないという。

そして道づくりと車だ。開かれた道の両側の植生は、日ごとに色を失い葉を落としていく。その異常に抗していくだけの、人手もなければ、じっくりと木を育てていこうという根気も、今の人にはなくなったと、利根川上流の山村の人は言った。

緑を求めるという。しかし、求めるためには、育てなければならないはずだ。緑は、単に与えられるだけのものではない。

山を守るために、ほんの少数の人たちの努力が続けられている。が、その力はまだ破壊を防ぐだけの力にはなっていない。

緑を求める人は、緑を育てるために、たとえわずかでもいい、何かの行動を起こそうではないか。その何かを採らないかぎり、確実に、日本の山は滅びる。

---

**語句**

**荒廃**―あれ、すたれること。

**アルピニスト**―（アルプス登山家の意から一般に）登山家。

**六甲山**―神戸市の北側にある山。

**雷鳥**―日本アルプスにすむ、ライチョウ科の鳥。ハトよりやや大きい。羽の色が冬は純白、夏は赤かっ色に黒いしま、春秋はその中間に変わる。天然記念物。

**ヒント**　問一　「破壊」しているものと、「育てるも

問一　右の文章を三つに分けるとすれば、どことどこで切れるか。第二段落と第三段落の最初の五文字を書け。

問二　山を守るためにはどうすればよいのか、列挙せよ。

B　利根川山系の水不足が深刻になった。九日から首都圏の東京、埼玉で一〇％の給水制限に入る。

東京の場合、直接影響を受けるのは二十一万戸と見込まれる。確かにこの程度なら、社会生活がマヒするような事態にはなるまい。去年も、八月十五日から五十七日間、給水制限に耐えた経験がある。

だが、状況を甘く見てはいけない。水事情は悪化の一途をたどっている。都市の水に対する体質がもろくなり、上流の水源地域で雪が少なかったり、カラ梅雨になると、たちまち給水制限をせねばならない。当座は一〇％制限だが、お天気次第では二〇％以上にならぬとも限らない。「東京砂漠」寸前にある。

この状態は日本中の都市に広がろうとしている。去年、福岡市を見舞った渇水は、決してよそごとではない。

われわれは、水不足から生活を守るために自衛しなくてはならない。ダムや河口堰を造ったり、湖沼を人工の調整池にしたり、河川の流れを変えたりする仕事は急にはできない。できたところで、水の使い方が変わらねば、水需要との追いかけっこに終わってしまう。

洗たくの方法を工夫しよう。洗車や水まきは自粛し、蛇口はきちんと締めよう。それが

の」との区別がつけばあとは簡単。序の部分を捜せばよい。

［出典］　B　新聞社説

**語句**

**当座**—①その席上。その場。②即座。③しばらくの間。当分。ここは③。

**自粛**—自分からすすんでひかえめにすること。

**需要**—もとめ。入用、要求。⑩供給。

自分の手でできる自衛の第一歩だろう。

この十年間に生活用水の需要は二倍になった。人類が油の使い方を真剣に考えねばならないように、この「有限の水」を再認識しなければ、生活は確実に壊れる。

問一　右の文章を二つに切るとしたら、第一段落の最後はどこか。句読点を含む五字を書け。

問二　この文章の要旨を二五字以内にまとめよ。

問三　AとBの文章に共通する考え方は何か。

ヒント

問一　「現状認識」と「しなければならないこと」を区別する。

## 二　指示語に関する問題

基本事項

同じことを何度も繰り返すのはくどいので、別の短い言葉に置き換える。その置き換えられた言葉が指示語である。論理的な文章などでは特に指示語が多いから、それを正確につかんでおかないと何を言っているかわからなくなる。

① 指示語には名詞（これ・それ・あれ・どれ）・連体詞（この・こんな・その・そんな・あの・あんな・どの・どんな）・副詞（こう・そう・ああ・どう）の三種類がある。

② 指示語の指す内容はふつうは前に出ていることが多い。

高く険しい山が見えた。それが我々の登る山だった。

③ ところが場合によっては後から出て来ることもあるので注意する。

これは私の聞いた話である。A県のB山で大きな山犬が出て……。

④ 指示内容は短い単語であったり、長い文であったりする。

「……。……。……。……。」老婆は、だいたい

こんな意味のことを言った。下人は、冷然として、この話を聞いていた。しかし、これを聞いているうちに、下人の心には、ある勇気が生まれてきた。

⑤　指示内容が漠然としてはっきりしないことがある。

この社会において……。

⑥　指示内容らしいものを見つけたら、必ず指示語と入れ替えてみて、意味が正しく通じるかどうか確かめる必要がある。

⑦　指示語は文中のある部分をそのまま抜き出せばいいとは限らない。離れている語をいくつか抜き出したり、「……こと」という名詞形に変えなければならない場合など、指示語に応じて答を考える必要がある。

**【練習問題】**

私もまた、幼いときから、小さいノートをもらって、三行か四行の日記を書くために、知らず知らずのうちに、書いてよいことと、書いてはぐあいの悪いことをだんだんに区別することを覚えていったことだろう。

それは今でも同じである。そして、日記を書いている人たちと話し合えばだれもがそうだということで、むしろどうしようもないことかもしれない。けれども、偽ったり、隠れようとしたりする自分を、偽りながら、隠れながら、そのとき見つめることはしている。正直でありえない者の言いのがれのようでもあるけれど、少なくも、偽る自分を自分自身だけは知らずにいない、ちゃんと気がついているということは、真剣に日記に向かっている者だけが得られる心の状態である。

A

「生きるということ、それは日々に快癒し、新たになることであり、またみずからを再

**【出典】**「表現の悦び」串田孫一（ぐしたまごいち）

串田孫一（一九一五―　）詩人・哲学者・随筆家。「若き日の思索のために」「博物誌」などの著書がある。

**語句**

**快癒**―病気・けがなどがすっかりよくなること。全快。

び見いだし、再び回復することでもある。」これはアミエルが日記に向かいながら考え、書きつけたことばである。

私たちは、なぜ、快癒しなければならないのだろうか。生きているかぎり、快癒の努力をしなければどうなっていくのだろうか。

世の中にはいろいろと生きる態度がある。それはいろいろに生きている人がいるからである。その中で、何が正しいか、何がまちがっているかを決めてしまうことはむずかしいし危険であるけれども、私は正しい生き方というものをあれこれと捜す前に、自分の持って生まれた性格や気質をしっかりと知らなくてはいけないと思う。

幼いときから、おまえは気短で、すぐに腹をたてると言われている人が、なるほどそうかもしれないと思って、自分はおこりっぽい人間だということを看板にして生きて行くことが性格を知ることではない。性格や気質というものは、自分にとってはいつも微妙なもので、柔らかく動き、ときにはどこからそんな力が出てくるのかと思うように、その性格が強く盛り上がってくる。そういう気質の変化の、細かな動揺を正確に知り尽くすことはなまやさしいことではない。Bそのためには努力をし続け、絶えず自分を見守っている根気がなければならない。日々に新しくなるとは、回復することであり、自分に気がつくことである。

その自分をあすのために、よりよい状態へ置こうとするのは、生きている者の美しい行為だと思う。

問一　傍線部A「そうだ」とはどういうことか。

---

アミエル―Henri-Frédéric Amiel（一八二―一八八一）スイスの哲学者。文学者。「日記」などがある。

気質―先天的に人が持っている精神的特質。素質。

ヒント

問三　「日記をつけること」は「自分をみつめるこ

問二　傍線部B「そのためには」とはどういうことか。

問三　「生きること」と「日記をつけること」はどこで結びつくか。

と」。「自分をみつめること」は何かを考える。

## 三　空所充填・選択肢の問題

**基本事項**

空所充填問題は、うめるべき語句が示されている場合と、そうでない場合がある。前者の場合、空所と語句が同数の時と、語句が空所より多い時がある。後者は、文中より発見できるものと、語句を考え出さなければならないものがある。ふつうは単語を入れる場合が多く、その単語は、名詞・副詞・動詞・接続詞などである。長いものでは、文中のある部分を入れたり、よく知られたことわざであったりする。脱落文を入れる問題も、空所充填の変形だと考えられる。

指示語をみつける場合と同じように、入れてみて文章が円滑に流れるように読めるかどうかがポイントである。何かぎくしゃくとしてひっかかるような感じがしたら、見あわせたほうがよい。

選択肢は、微妙に表現の違う似たような語句が列挙されていて、最も適当なものを選ばせる問題である。空所充填に使われたり、語句の解釈、文章の読解などにも用いられる。四つぐらいの解が示されていて、二つぐらいはすぐに除くことができるが、最後の二つは紛らわしくできているので、選択に苦しむ。文を繰り返し読み、素直に円滑につながるほうを取る。

**【練習問題一】**

ファーブルの「昆虫記」を読むと、はちやありたちが、その本能の導くところに従って、いかに驚嘆すべき仕事を成し遂げるかが（ア）に語られている。

[a]、あなばちが幼虫の食料としてきりぎりすもどきを巣穴にたくわえておくとき、

【出典】高階秀爾（たかしなしゅうじ）「芸術・狂気・人間」一部加筆。高階秀爾（一九三一　）東大助教授。美術評論家。著書に「ピカソ・剽窃の論理」

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.